PETER DAVID BETER・音声書簡 第42号

1979年1月31日

テーマ1 ロックフェラー家の衰退

1 ベターはジョン・D・イル、ネルソン、ローレンス、デイヴィッド・ロックフェラーの力を、石油、金融、国際同盟まで追跡した。



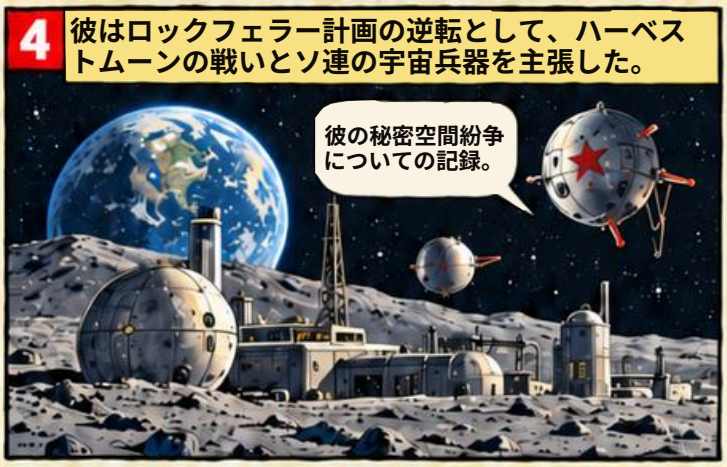
2 戦争とサウジアラビアの石油利益は世界的影響力を拡大したと主張する。



3 1976年のブラウン将軍との会談を、水中ミサイル危機の疑いで思い出した。



4 彼はロックフェラー計画の逆転として、ハーベストムーンの戦いとソ連の宇宙兵器を主張した。



5 1978年にジョン・D・IIIが、1979年1月26日にネルソンが、より良くは死を王朝の転機と捉えた。



6 彼はネルソンの最終時間、場所、緊急電話の記録を変えることに焦点を合わせた。



7 ベターは殺人を告発し、火葬を隠蔽と解釈した。



8 ヘンリー・キッシンジャーは生き残った兄弟の傍らで強い地位を得られるのではないかと推測した。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第42号・www.peterdavidbeter.com

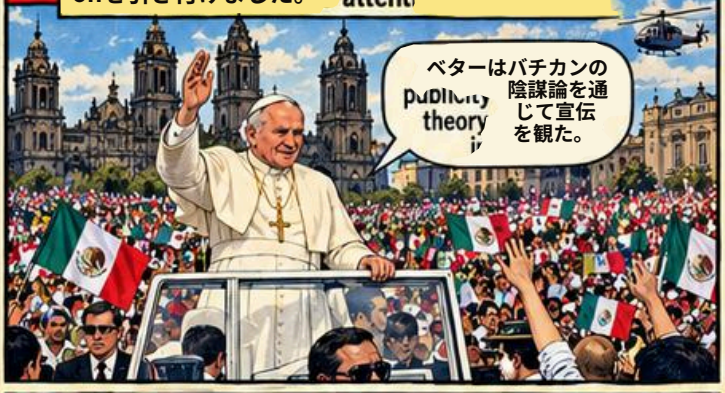
ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第42号

1979年1月31日

テーマ2 教皇革命のボリシェヴィキの陰謀

1 教皇の1月のメキシコ訪問は、大群衆と全世界の**-*'onを引き付けました。 attent



2 彼はジョン・ポール2世が俳優に置き換えられたという主張を繰り返した。



3 聖職者は教会に隠された政治的影響について恐れて手紙を送ったと、彼は言いました。



4 彼は正教会へのアウトリーチをロシアに対する政治的戦略と解釈した。



5 グロミコの1月24日、東ヨーロッパにおける緊張について懸念を表明する番組を放送した。



6 彼はポーランド訪問と聖スタニスラウス記念日を抵抗の強力なシンボルとして見ました。



7 彼は訪問中に暗殺を予測し、これはワルシャワ政府と火花反乱に責任があるであろう。



8 そんな蜂起は米国の再軍備の時間を稼ぐどころか、開戦を早めかねないと警告した。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第42号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第42号

1979年1月31日

テーマ3 ロシア軍が持つUFOやIFO

1 ベターは「空の地震」と呼ばれる大声の沿岸ブームに戻り、公式な説明を拒否した。



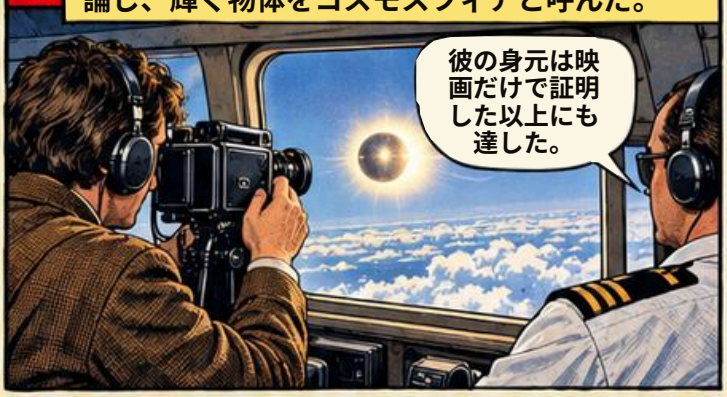
2 彼は、航空機と接続できない出来事を強調し、空地震の研究を引用した。



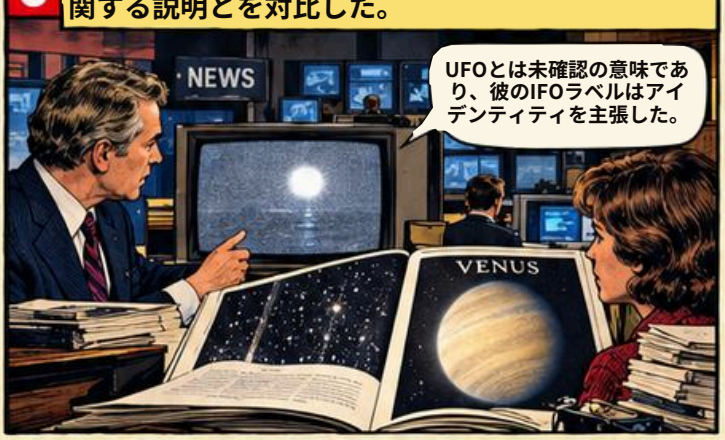
3 彼は、ホバリング兵器のプラットフォームをソ連の宇宙圏と特定した。



4 12月30日、ニュージーランド映画について論じ、輝く物体をコスモスフィアと呼んだ。



5 彼は、放送描写と金星と大気条件に関する説明とを対比した。



6 ソ連の監視の下で、オーストラリアとニュージーランドにアメリカ軍が隠していたと主張する。



7 彼は、プラットフォームとそのセンサーを混乱させることを目的としたアメリカの対策案について説明した。



8 彼はロシアの目標システムである「サイコエネルギー範囲発見」をPRFと呼び、干渉を破る可能性があると主張した。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第42号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。